東京大学言語学論集

Tokyo University Linguistics Papers
(TULIP)

14

1995年3月
March 1995

土田 滋先生退官記念号

Festschrift for Prof. Dr. TSUCHIDA Shigeru

東京大学文学部言語学研究室

Department of Linguistics
Faculty of Letters
The University of Tokyo

『東京大学言語学論集』14 (1995), 359-406

エストニア語の変格(translative)の意味と用法について

松村 一登

キーワード: エストニア語, 格, 変格, ウラル諸語, コーパス

要 旨

本稿は、エストニア語の名詞の格の１つである変格(translative)について、書きことばのコーパス資料(およそ９万語)から採集した実際の使用例(約1,000例)の意味・用法を包括的に記述する試みである。用例は、主語補語、目的語補語、時間表現、目的を表わす変格、文副詞相当の変格表現の５つのグループに分けて、それぞれのグループごとに分析・記述する。また、これらのグループが互いに交わっていることを示すと思われる具体的な用例を示す。

内 容

1. はじめに
 1.1. エストニア語の名詞の格の体系
 1.2. コーパスと用例
 1.3. 伝統文法における変格の扱い
2. 分析の枠組の準備
 2.1. 英語文法における「主語補語」、「目的語補語」
 2.2. エストニア語における「主語補語」、「目的語補語」
3. 変格の用いられる統語的環境
 3.1. 主語補語としての変格
  3.1.1. 動詞 olema とともに用いられる場合
  3.1.2. 主格補語と変格補語
  3.1.3. 状態変化を表わす自動詞とともに用いられる場合
 3.2. 目的語補語としての変格
 3.3. 補語としての変格に関する補足事項
  3.3.1. 変格構文と出格構文
  3.3.2. 変格補語における数の一致
 3.4. 変格の副詞的用法

3.4.1. 時間表現に用いられる変格
3.4.1.1. 期間を表わす変格
3.4.1.2. 期限を表わす変格
3.4.2. 目的の表現に用いられる変格
3.4.3. 文副詞的な用法
3.4.4. 変格の副詞的用法に関する補足
4. 複合動詞・慣用句のなかの変格表現
5. まとめ

略号一覧
用例の出典の略号
参考文献

1. はじめに

1.1. エストニア語の名詞の格の体系

エストニア語[1]の標準文法では、名詞(形容詞・代名詞・数詞等を含む)が、(1)にしめす14の格に活用するとされている[2]。

(1) エストニア語の名詞 kirik「教会」の格変化(単数形のみ)

1. 主格(nominative)	kirik	教会(が)
2. 属格(genitive)	kiriku	教会の／を
3. 分格(partitive)	kiriku-t	教会を

---

1 エストニア語 (eesti keel, Estonian)は、ウラル語族フィン・ウゴル語派バルト・フィン諸語に属する言語で、バルト3国のひとつであるエストニアの公用語である。エストニア語の母語話者はおよそ100万人、ほとんどがエストニア本国に住んでいる。エストニア語はラテン文字で表記され、本稿におけるエストニア語の例文等は、必要に応じて形態素の境界をハイフンで示したほかは、正書法のままである。

2 本稿で「格」と呼ぶのは、形態論的な概念としての格である。この意味での格は、格文法に代表される考え方における「格」の概念、すなわち、名詞句の動詞に対する意味論的・機能的な関係、言い替えると、文の意味構造を動詞を中心に記述する場合の名詞句の意味的な役割とは、厳密に区別される。エストニア語の格の日本語名は松村(1988)に従う。標準文法では、14の格を表1のような順番で並べる慣例がある。なお、それぞれの格形に添えられている日本語訳は、便宜上のもので、厳密な意味での意味記述として添えたものではない。

4. 入格(illative)	kiriku-sse	教会(の中)へ
5. 内格(inessive)	kiriku-s	教会(の中)で
6. 出格(elative)	kiriku-st	教会(の中)から
7. 向格(allative)	kiriku-le	教会に対して
8. 接格(adessive)	kiriku-l	教会において
9. 奪格(ablative)	kiriku-lt	教会から
10. 変格(translative)	kiriku-ks	教会に［なる］
11. 様格(essive)	kiriku-na	教会として
12. 到格(terminative)	kiriku-ni	教会まで
13. 欠格(abessive)	kiriku-ta	教会なし(で)
14. 共格(comitative)	kiriku-ga	教会と／を用いて

本稿は、(1)で10番目に挙げられている変格について、その用法を、エストニア語の書きことばのコーパスから収集された約1000の用例に基づいて記述する試みである。

1.2. コーパスと用例

この研究で資料として用いたのは、次の４つのテキストで、のべ語数は合計するとおよそ９万語である[3]。

Heljo Mänd 1983. *Väikesed võlilled*. Tallinn: Eesti Raamat, pp.3-127, 約36,700語［略号 M］

Oskar Luts 1982. *Kevade. Pildikesi koolipõlvest* I ja II. Tallinn: Perioodika, 13. trükk, pp.7-72, 約18,600語［略号 L］

L. Lumiste et. al. 1963. *Meie kodumaa*. Stockholm: Rootsi-Eesti Õpperaamatufond, pp.120-198, 約14,700語［略号 K］

Maimu Berg 1987. *Kirjutajad. Seisab üksi mäe peal.* Tallinn: Eesti Raamat, pp. 145-214, 約20,000語［略号 B］

3　利用したテキストは、筆者が作成中の エストニア語の電子化コーパスの一部をなすものである。これらの資料からとった用例は、すべて略号とページ番号によって出典を明記する。たとえば、(M042)はその用例が Heljo Mänd (1983)の42ページからとられたものであることを意味する。用例における[...]は、スペースの節約のために語句を省略して引用された用例であることを示す。なお、本稿には一部、『エストニア語文語辞典』 (Eesti kirjakeele seletussõnaraamat) ［略号 EKS］、Saagpakk (1992)［略号 SP］、Tauli (1980)［略号 VT］、坂本(1992)［略号 SM］の用例を利用した箇所がある。

用例を数える際にとった基本原則は、(i)主名詞が変格形の場合、主名詞に一致して変格形をとっている形容詞修飾語は独立した用例とみなさない；(ii)変格名詞(または変格形容詞)そのものが等位構造をなしている場合は、１つの用例と見なす、の２つである。

この２つの原則にしたがえば、たとえば、次の例文(2a)と(2b)は、ともに変格の用例を１つ含む文と見なされ、例文(2c)は、変格の用例を２つ含む文と見なされる。

(2) a. Tartu kõrval *teise-ks* *rahvusliku-ks* *keskuse-ks* kujune-s
Tartu.GEN beside second.TRA national.TRA center.TRA form.PAST.3sg
Tallinn, [...] (K122)
Tallinn.NOM
「タルトと並んで民族運動のもう１つの中心となったのはタリンであった」

b. [...] see jää-b-ki teie *ainsa-ks* *kodu-ks* ja *kodumaa-ks*. (B205)
DEM.NOM remain.3sg.EMPH 2pl.GEN only.TRA home.TRA and homeland.TRA
「この町は、あなたの唯一の故郷であり、祖国であり続ける」

c. [...] isa sa-i *aidamehe-ks* ja ema
father.NOM get.PAST.3sg granary-keeper.TRA and mother.NOM
pere-emanda-ks. (K157)
house-mistress.TRA
「父は倉庫の番人となり、母は主婦となった」

変格の使用例と認められた箇所は、Mänd (1983)に426例、Luts (1982)に196例、Lumiste et al. (1963)に250例、Berg (1987)に238例、合計で1110例あった[4]。

1.3. 伝統文法における変格の扱い

エストニア語の伝統的な文法書で、それぞれの格をひとつひとつ取り上げて、その用法

4 1110例の中には、疑問詞 miks「なぜ、どうして」(76例)、後置詞 jaoks「～のために」(38例)の用例が含まれている。この２つの語は、今回採集した変格形の語の中で最も頻度が高かった語である。したがって、本来の意味での変格の用例は、この２つの語の用例を除いた 997 例と考えたほうがいいかもしれない。 miks, jaoks と並んで飛び抜けて頻度の高い変格形の語は、 lõpuks (38例)、(32例)の２つであるが、どちらも「最後に」というほぼ同じ意味をもつ語である点が興味深い。

を記述しているものはまれである[5]。その中では例外的といえる Lavotha (1973)は、エストニア語の変格の基本的な意味を次のように簡潔にまとめている。

> 変格は、変化、すなわち、ある状態への移行すること(ある状態から別の 状態へ移行すること)、ないしは、(一過的な)状態にあることを表わす［Der Translativ bezeichnet die Umwandlung, den Übergang in einen Zustand (den Übergang von einem Zustand in einen anderen) oder das (vorübergehende) Befinden in einem Zustand.］ (Lavotha 1973:95)

Lavotha はさらに変格の用法を５つに下位区分し、それぞれ(3)〜(6)のような用例を添えている(Lavotha 1973:95-96)。

(3) 変化の終点あるいは方向(der Endpunkt oder die Richtung der Umwandlung)

a. soo muutu-s *põllu-ks*
marsh.NOM change.PAST.3sg. field.TRA
「沼地が畑に変わった」

b. poiss kasva-s *suure-ks*
boy.NOM grow.PAST.3sg. big.TRA
「少年は成長した」

c. ilm lähe-b *ilusa-ks*
air.NOM go.3sg. beautiful.TRA
「天気がよくなる」

d. ta jä-i *haige-ks*
3sg.NOM remain.PAST.3sg. ill.TRA
「彼女は病気になった」

---

5 伝統的なエストニア語の文法では、それぞれの格の用法は、いくつかの箇所に分散して解説される慣行がある。たとえば Tauli (1980)では、変格の意味・用法を、動詞とシンタグムを作っている場合と名詞句のなかに現われる場合とに大きく二分して、全く別の箇所で扱っているほか、より小さいテーマに関する記述は文法書の他の箇所にもある。このため、たとえば、名詞化された構造に現われる変格表現が、名詞句のなかに現われる変格の項で扱われているために、動詞とシンタグムを作っている変格に関する記述との関係がつけられていないという、不都合が生じている。同様の構成は、Erelt et al. (1993) でも、そのまま踏襲されている。参考までに、現行の標準文法の枠組の生まれる以前に書かれた Wiedemann (1875)では、名詞のそれぞれの格の用法を１箇所にまとめて記述するという方法がとられていることを指摘しておく。

(4) 状態(der Zustand)

ta on *õpetaja-ks* Tartu-s
3sg.NOM be.3sg teacher.TRA Tartu.INE
「彼女はタルトで教師をしている」

(5) 期限または予定される期間(die Zeitgrenze oder die beabsichtigte Zeitdauer)

a. tule *õhtu-ks* koju
come.IMP.2sg evening.TRA home
「夜になる前に家に帰って来なさい」

b. lähe-n *kuu-ks* *aja-ks* puhkuse-le
go.1sg month.TRA time.TRA vacation.ALL
「1カ月の予定で休暇に出かける」

c. *sügise-ks* saa-b töö valmis
autumn.TRA get.3sg job.NOM ready
「秋までには仕事が出来上がる」

(6) 序数の変格形の特別な用法

esite-ks 「第1に、まず最初に」
eise-ks 「第2に、次に」
kolmanda-ks 「第3に」
viima-ks 「最後に」

(7) 副詞成分が変格形の複合動詞

anna *ande-ks*
give.IMP.2sg
「ゆるしてください」

uttava-ks saa-ma
acquaintance.TRA get.INF
「知り合いになる」

hea-ks kiit-ma
good.TRA praise.INF
「承認する」

Lavotha (1973) によるこの5項目の分類のうち、4番目は、非常に限られた語彙グループ(序数)の変格形が特別な用法をもつことの指摘であり、5番目は、変格形の副詞成分をもつ複合動詞の存在の言及で終っている。したがって、本来の意味で、変格の意味・用法の下位区分を論じているのは、最初の3つのみと考えられる。 以下では、Lavotha (1973) による変格の意味・用法の下位区分が、実際の変格の用例を残さず説明できるかどうかを検討する。

2. 分析の枠組の準備

2.1. 英語文法における「主語補語」、「目的語補語」

本稿では、伝統的な英語文法[6]の「主語補語」(subject complement)、「目的語補語」(object complement)の概念を借用して、変格の意味・用法を記述することを試みる。

英語文法では、「コピュラ動詞」(copular verb, linking verb)と呼ばれる動詞とともに現われ、主語にかかる文成分を、伝統的に「主語補語」と呼んでいる。コピュラ動詞の典型はbe動詞である。主語補語の役割は、「同定」(identification) －例文(8)－の場合と「形容」(characterization)－例文(9)－の場合とがある。

(8) Kevin is *my brother*.

(9) a. Kevin is *young*.
b. Kevin is *a student*.

主語補語は、コピュラ動詞の性質によって、主語の現在の性質・状態(現状)－例文(10)－を表わしたり、主語の性質・状態の変化の行き着く先(結果)－例文(11)－を表わしたりする。

(10) a. He seems *unhappy*.
b. She remained *silent*.

(11) a. We became *restless*.
b. He fell *ill*.

6 この節(2.1.)は、Quirk et al. (1985)の第10章にほぼ従う。

文(12b)における very pleasant と目的語 them の意味的関係は、文(12a)における主語補語 very pleasant と主語 they の意味的関係に対応していると見なすことができる。同様のことは、文(13b)における her assistants と them の意味的関係と、文(13a)における her assistants と they の意味的関係についてもなりたつ。

(12) a. They are *very pleasant*. (主語補語)
b. We find them *very pleasant*. (目的語補語)

(13) a. They became *her assistants*. (主語補語)
b. Carol made them *her assistants*. (目的語補語)

このように、目的語にかかる文成分として、対応する自動詞文における「主語補語」と並行的な役割を果たす他動詞文の文成分、すなわち、文(12b)の very pleasant、文(13b)の her assitants を、「目的語補語」と呼ぶ。主語補語に対応して、目的語補語に関しても、現状を表わす補語と結果を表わす補語の区別をたてることができる。たとえば、(12b)は現状を表わす補語の例であり、(13b)は結果を表わす補語の例である。

2.2. エストニア語における「主語補語」「目的語補語」

英語では、前置詞を含まない名詞句や形容詞句でないと補語と認定しにくいために、補語の認定にあたっては、形態的な面に関して妥協が必要になる。たとえば、文(14a)において、turned traitor は「コピュラ動詞 turn＋結果を表わす主語補語」と分析されるが、この文とほぼ同じ意味の文(14b)は、turned / into a traitorと成分分析すると、主語補語を含む文とは認めにくい。

(14) a. He turned traitor.
b. He turned into a traitor.

しかし、そのかわりに、turned into / a traitor と成分分析し、turned into を機能的に１つの動詞と見るならば、a traitor を主語補語と見なすことができて、２つの文が並行的に扱えることになる。しかし、その代償として、「動詞＋前置詞」という構造をした単独の動詞に

準じた語彙単位を認める必要が出てくる[7]。

これに対して、変格という形態が補語の範囲を超えて広がっているエストニア語では、英語とは逆の方向の問題が生じる。

たとえば、文(15a)の punaseks や文(15b)の puruks を結果を表わす主語補語と見なすことにはまったく問題がないと思われるが、その他の例については、やや問題がある。文(15c)の teerahaks は、変化の結果ととることもできるが、お金の用途・目的を表わしているととることもできる。文(15e)の場合は、動詞 minema が語彙的な意味(「行く、出かける」)で用いられている(läks oma äia tallu「義父の農場へ出かける」)ために、典型的な主語補語の構文とは見なしにくい。文(15d)の場合も、動詞に比喩的ながら「行く」という意味がはっきりとあり、(15c)と(15e)の中間にある例と考えられる。

(15) a. Teele *läks* kõrvu-ni *punase-ks*. (L024)
Teele.NOM go.PAST.TRA ear.pl.TER red.TRA
「テーレは耳まで真っ赤になった」

b. [...] sauna aken *läks* *puru-ks*. (L029)
sauna.GEN window.NOM go.PAST.3sg dust.TRA
「サウナの窓が割れた(粉々になった)」

c. Kümme rubla *lähe-b* *teeraha-ks*, [...](B211)
ten.NOM ruble.PAR go.3sg travel money.TRA
「10ルーブルは旅費になる」

d. *Ei* see tüdruk Jüri-le *naise-ks* *lähe*. (EKS.III.437)
NEG DEM.NOM girl.NOM Jüri.ALL wife.TRA go
「この娘さんはユリのところには嫁に行かないよ」

e. [...] minu ema Kristiine *läks*
1sg.GEN mother.NOM Kristiine.NOM go.PAST.3sg
oma äia tallu *teenijaks*. (M120)
own father-in-law.GEN farm house.ILL servant.TRA
「私の母親のクリスティーネは、義父の農場へ使用人として出かけた」

また、文(16a)の Emmi-tädiks は(結果を表わす)目的語補語と見なして問題ないと考えら

7 Quirk et al. (1985) は、turn into のように機能的に1つの単位と見なされる「動詞＋前置詞」を、prepositional verb(前置詞付き動詞)と呼んでいる(第16章参照)。

れるが、文(16b)と(16c)は、動詞 kutsuma が「招く、自分のところに来るように言う」という意味があり、意味の上で典型的な目的語補語とはみなしにくくなっているといえる。

(16) a. Lapse-d *kutsu-si-d* koristaja-t *Emmi-tädi-ks*. (EKS.II.621)
child.pl.NOM call.PAST.3pl cleaner.PAR Emmi-aunt.TRA
「子どもたちは、清掃係の女性をエンミおばさんと呼んだ」

b. *Peaministri-ks* *kutsu-ti* Konstantin Päts. (K127)
premier.TRA call.INDEF.PAST Konstantin Päts.NOM
「首相にはコンスタンティン・パッツが招かれた」

c. *Kutsu-s* venna enda-le *seltsi-ks*. (EKS.II.620)
call.PAST.3sg brother.GEN self.ALL company.TRA
「弟を自分の話相手として呼んだ」

このように、「主語補語」「目的語補語」という概念を用いた英語文法における分析方法は、そのままエストニア語の記述においてうまく機能するかどうかに関して、やや疑わしい面をもっている。しかし、その代わりとして拠り所となる他の概念的枠組がさしあたって見つからないので、この論文では、この問題には目をつむって、とりあえず英語文法の概念からの類推で直観的に解釈した「補語」の概念を用いて、変格の用いられる統語的環境を試験的に分類・記述してみることにする。

3. 変格の用いられる統語的環境

エストニア語の変格の意味・用法は、主語補語ないし目的語補語を表わす用法と、目的・用途や時間などを表わす副詞句として用いられる用法の２つに大きくわけることができる。この章では、まず、補語としての用法を、主語補語、目的語補語の順に見たあとで、副詞句としての用法を検討する。

3.1. 主語補語としての変格

3.1.1. 動詞 olema とともに用いられる場合

エストニア語の動詞 olema は、意味・用法の点で、英語の動詞 be にかなりうまく対応する。この動詞とともに用いられる変格は、Lavotha (1973)の下位区分の第２項－例文(4)

ーに対応する。この用法の例としては、(17)(18)(19)を含む81例がコーパスから採集された。

(17) a. [...] *ol-i-n* oma õpetaja-le rohkem *jooksupoisi-ks* kui *õpilase-ks*. (M040)
be.PAST.1sg own teacher.ALL more errand-boy.TRA than pupil.TRA
「私は先生にとって、生徒というよりは使い走りといったほうがよかった」

b. Ta käi-s ülikooli-s ja *ol-i* meie suguvõsa *uhkuse-ks*.
3sg.NOM go.PAST.3sg university.INE and be.PAST.3sg 1pl.GEN lineage.GEN pride.TRA
「彼は大学に通っており、私の一族の誇りだった」(M050)

c. Aga järgmise-l päeva-l *polnud* minu must lint enam
but next.ADE day.ADE NEG.be.PAST 1sg.GEN black.NOM ribbon.NOM any more
kelle-le-gi *uudise-ks* [...] (M072)
anyone.ALL.EMPH news.TRA
「しかし翌日になると、私がしている(喪章の)黒いリボンは、もはや誰にもニュース性をもたなかった」

変格補語は、主題として、頻繁に文頭に現われる。

(18) a. *Eesti rahusaatkonna juhi-ks ol-i* Jaan Poska. (K132)
Estonian peace delegation.GEN leader.TRA be.PAST.3sg Jaan Poska
「エストニアの和平交渉使節の団長は、ヤーン・ポスカだった」

b. [...]*õppekeele-ks* viimase-s *ol-i* saksa keel. (K175)
language of instruction.TRA last.INE be.PAST.3sg German language.NOM
「後者(の学校)において授業で用いられた言語は、ドイツ語だった」

c. *Ühe-ks meie ettevõtmise-ks ol-i* käik Tiigiveski-le, [...] (M057)
one.TRA 1pl.GEN enterprise.TRA be.PAST.3sg visit.NOM Tiigiveski.ALL
「私たちがした冒険の一つは、ティーギヴェスキ公園へ行くことだった」

次のような語順の文にも注意する必要がある。

(19) a. Praegu *ol-i* *selle-ks* tädi Kurnim, [...] (M028)
now be.PAST.3sg DEM.TRA aunt Kurnim
「今、それにあたるのはクルニムおばさんだった」

b. Mu-l *ol-i* juba *sõbratari-ks* pinginaaber Hilja. (M043)
1sg.ADE be.PAST.3sg already girl friend.TRA neighbor.NOM Hilja.NOM
「私にはもう女の友だちがいて、それは隣の席のヒリヤだった」

動詞 olema とともに現われる変格補語は、すべて名詞である。

3.1.2. 主格補語と変格補語

形容詞が動詞 olema の主語補語として現われる場合－例文(20)－は、常に主格形であらわれ、変格形をとることはない。これを主格補語と呼ぶことにする。主格補語は、主語と数の一致を行う。名詞も主格補語として現われることができ－例文(21)－、形容詞の場合と同じく、主語と数の一致をする。

(20) a. *See* *naine* on *ilus* (*haige, pikk*).
DEM.NOM woman.NOM be.3sg beautiful.NOM (ill.NOM, long.NOM)
「この女性は美しい(病気だ、背が高い)」

b. *Need* *naise-d* on *ilusa-d* (*haige-d, pika-d*).
DEM.pl.NOM woman.pl.NOM be.3pl beautiful.pl.NOM (ill.pl.NOM, long.pl.NOM)
「この女性たちは美しい(病気だ、背が高い)」

(21) a. *Ta* on *jaapani* *tüdruk.*
3sg.NOM be.3sg Japanese girl.NOM
「彼女は日本の娘だ」

b. *Nad* on *jaapani* *tüdruku-d.*
3pl.NOM be.3pl Japanese girl.pl.NOM
「彼女たちは日本の娘だ」

変格補語と主格補語の対立が見られるのは、したがって、補語が名詞の場合に限られる[8]。変格補語と主格補語の違いは、ふつう、前者が「一時的、一過的」な状態を表わす

8 ただし、「動詞 olema ＋主語補語」の構造が名詞化されると、主格補語は座りが悪くなって、変格補語が一般化するようである。

のに対し、後者は「恒常的」な状態を表わすという対立として説明される。

たとえば、文(22a)のように、ヤーンが現在、実際に特定の学校で教師として働いていることを表わす場合には、変格補語が用いられるのに対し、文 (22b)のように、主格補語を用いると、ヤーンが現時点で実際に教師として働いているかどうかは二次的な話題となり、ヤーンの「恒常的な性質」、すなわち、彼が教員の資格をもっている人であることを述べる文となる。

(22) a. Jaan on *õpetaja-ks* selle-s kooli-s. (変格補語)
Jaan.NOM be.3sg teacher.TRA DEM.INE school.INE
「ヤーンはこの学校で先生をしている」

b. Jaan on *õpetaja*. (主格補語)
Jaan.NOM be.3sg teacher.NOM
「ヤーンは学校の先生だ」

動詞 olema とともに現われる変格補語における数の一致の問題は、後にまとめて扱うことにする。

3.1.3. 状態変化を表わす自動詞とともに用いられる場合

このタイプの変格の用法は、Lavotha (1973)の下位区分の第1項－例文(3)－にほぼ相当する考えられる。動詞 olema 以外で、変格の主語補語をとる自動詞は、おおむね変化の結果をあらわす補語をとっていると見なしてよいと思われるからである。

次の動詞は、いずれも現状を表わす主語補語をとっていると考えられるが、主格または様格の補語をとり、変格とは共起しない。

---

a. Ma ole-n tüdi-nud *tema* *venna-ks* *olemise-st.*
1sg.NOM be.1sg get tired.NUD 3sg.GEN brother.TRA being.PAR
「私はあいつの兄(弟)であることに飽き飽きしている」

b. [...] need noore-d, kes siselinna-s usinasti *saksa-ks*
DEM.pl.NOM young.pl.NOM REL.NOM inner city.INE dilligently gentleman.TRA
olemis-t harjuta-si-d. (B193)
being.PAR practice.PAST.3pl.
「街で一生懸命上流階級の人間として振る舞う練習をしているあの若者たち」

(23) a. [...] siis *näi-s* hõljumine rohkem *koomiline* kui *graatsiline*. (M043)
then look.PAST.3sg floating.NOM more comical.NOM than graceful.NOM
「すると舞いが、優雅というよりは、滑稽に見えた」(主格)

b. Kogu-lt *tundu-s* ta küll *peenike* ja *nõtke* nagu
size.ABL feel.PAST.3sg 3sg.NOM indeed slender.NOM and supple.NOM like
noor tamm. (B192)
young.NOM oak.NOM
「彼女の体は、樫の若木のように細くしなやかに感じられた」(主格)

c. Nii *paist-si-d* silma-d palju *suurema-d*, [...] (B174)
so appear.PAST.3pl eye.pl.NOM much bigger.pl.NOM
「そのため、目がずっと大きく見えた」(主格)

d. [...] selle, mis meid lase-b *halvema-na* *paista*. (M061)
DEM.GEN REL.NOM 1pl.PAR let.3sg worse.ESS appear.INF
「自分を悪く見せるようなものを」(様格)

変格の主語補語をとる自動詞の唯一の例外は、動詞 jääma で、この動詞のつくる変格補語の文には、状態の変化－例文(24)－を表わしているものと、現状の維持－例文(25)－をあらわしているものとがある。

(24) a. Öösel *jä-i* Lilian päris *haige-ks* [...] (M057)
at night remain.PAST.3sg Lilian.NOM quite ill.TRA
「夜中にリリアンは本格的な病気になった」

b. Korter *on* perekonna-le *väikese-ks* *jäänud*. (EKS.I.706)
apartment.NOM be.3sg family.ALL small.TRA remain.NUD
「アパートは家族にとって小さくなった」

(25) a. Mats *jä-i* surma-ni *poissmehe-ks*. (EKS.I.706)
Mats.NOM remain.PAST.3sg death.TER bachelor.TRA
「マッツは死ぬまで独身だった」

b. Näitus *jää-b* *avatu-ks* 30. novembri-ni. (EKS.I.706)
exhibition.NOM remain.3sg open.TRA 30th nobember.TER
「展覧会は11月30日まで開催される」

変格をとる自動詞の用例は全部で335例(全体の33％)でもっとも頻度が高いのは、saama

「～になる」(105例)、jääma「～になる」(68例)、muutuma「変化する」(55例)、minema「～になる」(36例)の４つである。(3)に muutuma, kasvama, minema, jääma の４つの動詞の用例があるので、このほかの動詞の具体例を(26)に掲げる。

(26) a. Arno *saa-b* *terve-ks*. (L072)
Arno.NOM get.3sg well.TRA
「アルノが元気になる(病気が回復する)」

b. Kõik *ol-i-d* täna järsku *eestlas-te-ks* *saa-nud*, [...] (B193)
all be.PAST.3pl today suddenly Estonian.pl.TRA get.NUD
「今日は突如として全員がエストニア人になっていた」

c. Tartu kõrval *teise-ks* *rahvusliku-ks* *eskuse-ks* *kujune-s*
Tartu.GEN beside second.TRA national.TRA center.TRA form.PAST.3sg
Tallinn, [...] (K122) [=(2)]
Tallinn.NOM
「タルトと並んで民族運動のもう１つの中心となったのはタリンであった」

d. [...] selle mehe nimi, kes *kõige* *vanema-ks* *ela-s*, [...] (L022)
DEM.GEN man.GEN name.NOM REL.NOM most older.TRA live.PAST.3sg
「もっとも長生きした男の名前」

e. [...] *ol-i-me* *jagune-nud* nüüd *klassi-de-ks* [...] (M048)
be.PAST.1pl be divided.NUD now class.pl.TRA
「わたしたちはクラスに分れていた」

f. [...] me *sula-si-me* silmapilk *ringi-ks*. (M065)
1pl.NOM melt.PAST.1pl in a moment ring.TRA
「わたしたちは一瞬のうちに１つの輪になった」

g. Ja ema *ehmu-s* *vaikse-ks*. (M025)
and mother.NOM be frightened.PAST.3sg silent.TRA
「母は驚いて黙り込んでしまった」

h. [...] kui ta-l mõni kleit *vana-ks* *kulu-s*. (M023)
as 3sg.ADE some.NOM dress.NOM old.TRA wear out.PAST.3sg.
「彼女の服のどれかが着古された時には」

i. Kui vesi mu vere-st *punase-ks* *värvu-s*, [...] (M011)
as water.NOM 1sg.GEN blood.ELA red.TRA be colored.PAST.3sg
「水が私の血で赤く染まった時」

j. Kentuki Lõvi silma-d *veni-si-d* *oobipõhja* *suuruse-ks*. (L021)
Kentucky Lion. GEN eye.pl.NOM stretch.PAST.3pl pot bottom.GEN big.TRA
「ケンタッキー・ライオン(あだ名)の目は、たらいのように大きくなった」

k. Sauna aken *lenda-s* klirise-des *puru-ks*. (L028)
sauna.GEN window fly.PAST.3sg clatter.DES dust.TRA
「サウナの窓はガチャンという音をたてて粉々に飛び散った」

l. Õlivabriku-te toodang *tõus-is* nii *suure-ks*, et [...] (K139)
oil factory.pl.GEN production.NOM rise.PAST.3sg so big.TRA that
「石油工場の生産は非常に上昇し、...」

次の(27)の３つの動詞－tahtma「意図する」、hakkama「始める」、õppima「学ぶ」－の例は、(26)の例と比べて、主語にはっきりとした主体性ないし意志が感じられる。すなわち、(26)の文における変格は、変化の結果・到達点を表わしていると考えられるが、主体が問題の変化を起こそうと意図していることを表わす(27)のような文にける変格は、変化の結果というよりは、変化の目標を表わしていると見なした方がよいと思われる。

(27) a. [...] siis mina ütle-n ka, *kelle-ks* mina *taha-n*. (L014)
then 1sg.NOM say.1sg also who.TRA 1sg.NOM want.1sg
「そうしたらわたしも、自分が何になりたいか言います」

b. Ta luba-s, et *hakka-b* kohe pärast sõda *nukuisa-ks*, [...]
3sg.NOM promis.PAST.3sg that start.3sg soon after war.PAR doll father.TRA
(M009)
「兄は、戦争ごっこが終ったら、すぐ人形のお父さんになって遊んであげると約束した」

c. ta *õpi-b* *arsti-ks* (SP1148)
3sg.NOM study.3sg doctor.TRA
「彼は医者になるための勉強をしている」

動詞 kõlbama「(～として)通用する」、sobima「(～に)適している」とともに現われる変格は、役割を表わすと考えて、(現状を表わす)主語補語と見なす。この２つの動詞がとる変格表現のうち、主語補語としては扱えないものについては、「目的を表わす変格」の項(3.4.2.)で扱う(例文(60)参照)。

(28) a. Ta *ei* *kõlba* *õpetaja-ks*. (EKS.II.654)
3sg.NOM NEG be fit teacher.TRA
「彼女は教師には向いていない」

b. [...] *köstri-ks* *sobi-b* ta küll. (B150)
parish clerk.TRA suit.3sg 3sg.NOM indeed
「彼は寺男としてぴったりだ」

次の例は、(予定される)役割を表わしていると考えて、変化の結果を表わす主語補語の一種として扱うことにする。この意味になる変格は、どちらかといえば他動詞の場合に多く見られる(例文(35)参照)。

(29) a. [...] *tule* mei-le *koka-ks*. (M029)
come.IMP.2sg 1pl.ALL cook.TRA
「うち(レストラン)にコックとして来てください」

b. *Ei* see tüdruk Jüri-le *naise-ks* *lähe*. (EKS.III.437) [=(15d)]
NEG DEM.NOM girl.NOM Jüri.ALL wife.TRA go
「この娘さんはユリのところには嫁に行かないよ」

c. [...] minu ema Kristiine *läks* oma äia
1sg.GEN mother.NOM Kristiine.NOM go.PAST.3sg own father-in-law.GEN
tallu *teenijaks*. (M120) [=(15e)]
farm house.ILL servant.TRA
「私の母親のクリスティーネは、義父の農場へ使用人として出かけた」

3.2. 目的語補語としての変格

主語補語の場合とは異なり、目的語補語の場合には、変格補語以外は見られないようである。特記すべきこととして、Lavothaの文法には、例文(3)を見ればあきらかなように、変格の目的語補語としての用法についての言及がまったくないという問題点があることをあげておく必要がある。

目的語補語の用例として分類された用例は全部で225例で、これは全体の23%にあたる。用例がもっとも多かった動詞は、tegema「作る、する」(58例)、pidama「見なす」(28例)、nimetama「名付ける」(19例)である。目的語補語をとる動詞の典型としての動詞tegemaの用例を(30)にあげる。

(30) a. See *teg-i* ema *mureliku-ks* [...] (M105)
DEM.NOM make.PAST.3sg mother.PAR anxious.TRA
「そのことは母を心配な気持ちにさせた」

b. See *ei* *tee* asja muidugi *kergema-ks*, [...] (B200)
DEM.NOM NEG make thing.PAR of course easier.TRA
「もちろん、それがことをより簡単にするわけではない」

c. Te-da *tee-b* mees-te vaidlus *närvilise-ks*, [...] (B159)
3sg.PAR make.3sg man.pl.GEN dispute.NOM nervous.TRA
「男たちの口論が彼をいらいらさせる」

d. *Tee-me* ennast *mustlas-te-ks*, [...] (M073)
make.1pl self.PAR gypsy.pl.TRA
「ジプシーに変装しようよ」

e. Kudas sa tohi-d teis-t *varga-ks* *teha*? (L042)
how 2sg.NOM may.2sg other.PAR thief.TRA make.INF
「君は何の権利があって他人を泥棒に仕立てるのか」

目的語補語をとる動詞は、この他につぎのようなものがある。(31)は、いずれも変化の結果を表わす目的語補語の例である。

(31) a. Tegelikult *muut-si-d* just need silma-d näo veel
actually change.PAST.3pl just DEM.pl.NOM eye.pl.NOM face.GEN still
õudsema-ks. (B174)
more terrible.TRA
「実際、その目が顔をさらに恐ろしいものにした」

b. [...] *pühk-is* prilli-d *puhta-ks* [..] (L041)
wipe.PAST.3sg eyeglass.pl.NOM clean.TRA
「メガネを拭いてきれいにした」

c. *Värvi-si-me* ema huulepulga-ga oma huule-d *punase-ks*, [...] (M075)
color.PAST.1pl mother.GEN lipstick.COM own lip.pl.NOM red.TRA
「私たちは母の口紅で自分たちの唇を赤く塗った」

d. Eesti-s nõu-ti veel meie maa *ühendamis-t* *ühe-ks*
Estonia.INE demand.INDEF.PAST yet 1pl.GEN land.GEN uniting.PAR one.TRA
kubermangu-ks, [...] (K122)[9]
gubernia.TRA
「エストニアではさらに、われわれの住む地域を１つの県として統合することを要求した」

e. Jaak haara-b peekri ja *joo-b* selle suur-te sõõmu-de-ga
Jaak.NOM seize.3sg goblet.GEN and drink.3sg DEM.GEN big.pl.GEN gulp.pl.COM
tühja-ks. (B214)
empty.TRA
「ヤークは杯を手に取ると、それを大口で飲み干した」

f. [...] *ol-i* mu-l liha juba *pehme-ks* *keede-tud*, [...] (M121)
be.PAST.3sg 1sg.ADE meat.NOM already soft.TRA cook.TUD
「私は肉をすでに柔らかく料理してあった」

g. [...] ole-n ma eksi-nud, kui ma teid kõiki *eestlas-te-ks*
be.1sg 1sg.NOM err.NUD as 1sg.NOM 2pl.PAR all.pl.PAR Estonian.pl.TRA
kasvata-si-n. (B204)
bring up.PAST.1sg
「君らを全員エストニア人として育てた私は間違っていた」

h. [...] vanaisa taht-is onu Rudolfi-t *targema-ks* *koolita-da*, [...]
grandpa.NOM want.PAST.3sg. uncle Rudolg.PAR wiser.TRA educate.INF
(M072)
「祖父はおじのルドルフをもっと頭がよくなるように教育したかった」

i. [...] Huule-tädi *hammusta-s* oma hamba *poole-ks*. (M021)
Huule-aunt.NOM bite.PAST.3sg own teeth.GEN half.TRA
「フーレおばさんは、(石をかみ)歯を半分に欠いてしまった」

j. [...] et *ehita-da* lossi ümbritse-va-t müüri *kõrgema-ks*. (M017)
that build.INF castle.PAR surround.VA.PAR wall.PAR higher.TRA
「城を取り巻く城壁をもっと高く建てようとして」

---

9 この例では、変格表現は名詞化された構造の中に現れている。エストニア語では、名詞の格形は、主格・属格・分格をのぞき、名詞化に際して形態的な変化を受けないのが原則である。ただし、［注８］を参照。

k. Tartu ülikool *vali-s* ta *oma* *audoktori-ks.* (K177)
Tartu.GEN university.NOM choose.PAST.3sg 3sg.GEM own doctor emeritus.TRA
「タルト大学は、かれを名誉博士に選んだ」

l. *Peaministri-ks* *määra-ti* arst ning kirjanik Johannes Vares, [...]
premier.TRA appoint.INDEF.PAST doctor.NOM and writer.NOM Johannes Vares.NOM
(K142)
「首相には、医者で作家のヨハンネス・ヴァレスが任命された」

現状を表わす目的語補語をとる動詞の代表は pidama と nimetma である。便宜的に、それぞれ「見なしの変格」－例文(32)－および「名付けの変格」－例文(33)－と呼ぶことにする。

(32) a. [...] *pida-si-n* kuulsa-t lapsfilmitähte *oma* *sõbra-ks* [...] (M116)
regard.PAST.1sg famous.PAR child-film-star.PAR own friend.TRA
「有名な子役映画スターを自分の友人と考えていた」

b. [...] poiss, [...] kes eesti keel-t *oma* *emakeele-ks* *pea-b*, [...]
boy.NOM REL.NOM Estonian tongue.PAR own mother tongue.TRA regard.3sg
(B210)
「エストニア語を自分の母語と考えている少年」

c. Mees, kes *pida-s* ennast *Jumala* *poja-ks*, [...] (B146)
man.NOM REL.NOM regard.PAST.3sg self.PAR God.GEN son.TRA
「自分を神の息子と考えた男」

d. Ainult mina üksinda *ol-i-n* tähtpäeva *tühise-ks* *pida-nud.*
only 1sg.NOM alone be.PAST.1sg memorable day.PAR trifling.TRA regard.NUD
(M086)
「私ひとりが、その記念日を意味のないものだと考えていた」

(33) a. Ma ole-n uhke selle-le, et ennast *eestlase-ks* tohi-n *nimeta-da.*
1sg.NOM be.1sg proud DEM.ALL that self.PAR Estonian.TRA may.1sg name.INF
(K160)
「私は、自分をエストニア人と呼ぶことができることを誇りに思う」

b. [...] onu Rudolf *nimeta-s* mind alati *Päikesekiire-ks* (M050)
uncle Rudolf.NOM name.PAST.3sg 1sg.PAR always sunbeam.TRA
「おじのルドルフは、いつも私を『日光ちゃん』と呼んでいた」

c. *Ole-ks* ta mind ainult *kohmaka-ks* *nimeta-nud*, [...] (M042)
be.COND.3sg 3sg.NOM 1sg.PAR only clumsy.TRA name.NUD
「もし、彼が私をただ不器用だと言っただけだったら」

d. Miks sa se-da *solkimise-ks* *nimeta-d*? (B184)
why 2sg.NOM DEM.PAR spoiling.TRA name.2sg
「君はそれを何故〈だいなしにすること〉と考えるのか」

現状を表わす補語を取っていると考えられる動詞の例は、結果を表わす補語を取っているものに比べて、一般にかなり少ないようである。他の動詞の例をあげる。

(34) a. [...] *mõtle-si-n* neid *looma-de-ks* ning *lintu-de-ks*. (M122)
think.PAST.1sg DEM.pl.PAR animal.pl.TRA and bird.pl.TRA
「それら(雲)が動物や鳥だと思っていた」

b. [...] kui Kiir se-da *tarviliku-ks* *arva-b*. (L039)
as Kiir.NOM DEM.PAR necessary.TRA think.3sg
「もしキールがそれを必要と考えるなら」

c. [...] tagasihoidlikkus-t *loe-takse* ju *vooruse-ks*, [...] (M037)
modesty.PAR read.INDEF EMPH virtue.TRA
「遠慮は美徳と見なされる」

d. Kiir *tunnista-s* selle *oma-ks*. (L043)
Kiir.NOM testify.PAST.3sg DEM.GEN own.TRA
「キールは、それを自分のものと認めた」

e. [...] oma lapsepõlvemaa-le, mille ta *on* *risti-nud* *Vargamäe-ks*.
own childhood-land.ALL REL.GEN 3sg.NOM be.3sg baptize.NUD Vargamäe.TRA
(K181)
「ヴァルカマエと彼が呼ぶ少年時代を過ごした故郷へ」

f. Miks te-da *Praaga-Jüri-ks* *kutsu-takse*? (M111)
why 3sg.PAR Praaga-Jüri.TRA call.INDEF
「彼はどうして〈プラーガ・ユリ〉と呼ばれているのか」

g. Vene keel *kuuluta-ti* *ametliku-ks* *keele-ks*. (K120)
Russian language.NOM announce.INDEF.PAST official.TRA language.TRA
「ロシア語が公用語として宣言された」

目的語にかかる変格名詞の中には、変化の結果というよりは、目的語が表わす物の用途や使用目的、ないしは、目的語が表わす人の(予定された)役割を表わすと考えられるものも多く見られる。これを「用途・役割を表わす変格」と呼んで、目的語補語に準じて扱うことにする。

(35) a. [...] *and-si-d* talle *kingi-ks* fotoalbumi [...] (M036)
give.PAST.1sg 3sg.ALL gift.TRA photo-album.GEN
「彼女に贈物として写真のアルバムをあげた」

b. *And-is* oma tütre mulle *naise-ks*. (EKS.I.104)
give.PAST.3sg own daughter.GEN 1sg.ALL wife.TRA
「自分の娘を私に嫁として与えた」

c. *Nuku* *nime-ks* *pan-di* Jakob [...] (M116)
doll.GEN name.TRA put.INDEF.PAST Jakob.NOM
「人形の名前としてヤーコプと名付けた」

d. [...] tema [...] siis Teele enda-le *naise-ks* *võta-b*. (L024)
3sg.NOM then Teele.GEN self.ALL wife.TRA take.3sg
「彼がテーレを嫁にもらう」

e. [...] jõuluõhtu-l ei ole se-da ka kuskilt *laenu-ks* *võtta*. (B208)
Christmas Eve.ADE NEG be DEM.PAR also from anywhere loan.TRA take.INF
「クリスマスイブなので、それをどこからも借りることができない」

f. Ta *sa-i* selle oma perenaise-lt mehelemineku
3sg.NOM get.PAST.3sg DEM.GEN own mistress.ABL marriage.GEN
puhul *kingi-ks*. (B174)
on the occasion of gift.TRA
「彼女はそれを、奥様から結婚のプレゼントとしてもらった」

g. Tädi *tõ-i* lapse-le *kingi-ks* nuku. (EKS.II.282)
aunt.NOM bring.PAST.3sg child.ALL gift.TRA doll.GEN
「おばは、子どものプレゼントとして人形を持ってきた」

h. [...] *pakku-si-n* ennast *abi-ks* (M054)
offer.PAST.1sg self.PAR help.TRA
「私はお手伝いしましょうかと申し出た」

i. [...] ta [...] *nõud-is* *kingi-ks* sokolaaditahvli-t. (M035)
3sg.NOM demand.PAST.3sg gift.TRA chocolate bar.PAR
「彼女はプレゼントはチョコレートが欲しいと言った」

j. *Peaministri-ks* *kutsu-ti* Konstantin Päts. (K127) [=(16b)]
premier.TRA call.INDEF.PAST Konstantin Päts.NOM
「首相にはコンスタンティン・パッツが招かれた」

k. *Kutsu-s* venna enda-le *seltsi-ks*. (EKS.II.620) [=(16c)]
call.PAST.3sg brother.GEN self.ALL company.TRA
「弟を自分の話相手として呼んだ」

l. Sind ma *taha-ksi-n* *oma* *mini-ks*. (M106)
2sg.PAR 1sg.NOM want.COND.1sg own daughter-in-law.TRA
「あなたを息子の嫁にしたい」

m. Narva vastu *ehita-ti* Ivangorod *vene* *võimu* *eelposti-ks*.
Narva.GEN opposite build.INDEF.PAST Ivangorod.NOM Russian power.GEN outpost.TRA
(K152)
「ナルヴァの対岸に、ロシア権力の前線基地としてイワンゴロドが建設された」

同様の意味(「役割の変格」)をあらわしていると考えられる主語補語の例が、例文(29)にある。このタイプの変格は、目的語補語の方が圧倒的に多い。

3.3. 補語としての変格に関する補足事項

3.3.1. 変格構文と出格構文

状態変化を表わす構文としては、変格補語をとる変格構文のほかに、使用頻度はかなり低いが、出格構文がある。

状態変化は、変化前の状態と変化の結果を関係づけることによって表わされるが、変格構文は、主語または目的語が変化前の状態を表わし、変化の結果は変格で表わすのに対し、出格構文は、主語又は目的語が変化の結果を表わし、変化前の状態は出格で表わす。

出格構文には、主語補語に対応するもの－例文(36)－と、目的語補語に対応するもの－

例文(37)－の両方がある[10]。

(36) a. [...] *noore-st* *Tuglase-st* sa-i linnakooli õpilane. (K195)
young.ELA Tuglas.ELA get.PAST.3sg town-school.GEN pupil.NOM
「若いトゥクラスは町の学校の生徒になった」

b. [...] kuidas *sulase-st* sa-i omokorda peremees; [...] (M048)
how farm hand.ELA get.PAST.3sg in his turn master.NOM
「使用人がどのようにして農場主にまでなったか」

c. *Nei-st* sa-i-d siis meie sõjalaeva-d "Lennuk" ja "Vambola". (K129)
3pl.ELA get.PAST.pl then 1pl.GEN warship.pl.NOM Lennuk.NOM and Vambola.NOM
「これらが我が国の軍艦『レンヌック号』と『ヴァンボラ号』になった」

d. *Tüdruku-st* kasva-s kaunis neiu. (EKS.II.151)
girl.ELA grow.PAST.3sg beautiful.NOM maiden.NOM
「少女は美しい娘に成長した」

e. *Tema-st* kasva-s peagi kogenud juht. (EKS.II.151)
3sg.ELA grow.PAST.3sg soon experienced leader.NOM
「彼はまもなく経験をつんだ指導者に成長した」

f. [...] *tema-st* tule-b ükskord hea õmbleja. (M106)
3sg.ELA come.3sg sometime good.NOM seamstress.NOM
「この娘はいつか裁縫の上手な女になる」

---

10 目的語補語の構文に対応する(37)に現われる出格は、材料をあらわす出格とよばれる次の文のような出格表現と関係付けることができる。

a. Kui indiaanlase-d *selle-st* oma-le vibu-sid tee-vad, [...] (L021)
as Indian.pl.NOM DEM.ELA own.ALL bow.pl.PAR make.3pl
「インディアンの人たちがこれを使って弓をつくる時」

b. Või-d teha-kse *piima-st*.
butter.PAR make.INDEF milk.ELA
「バターは牛乳から作る」

(37) a. Püüd-is *oma* *las-te-st* kasvata-da tubli-sid ja ausa-id
try.PAST.3sg own child.pl.ELA bring up.INF good.pl.PAR and honest.pl.PAR
inime-si. (EKS.II.154)
person.pl.PAR
「子どもたちを善良で正直な人間に育てようと努めた」

b. [...] kui sa [...] *mei-st* sakslase-d ole-ksi-d kasvata-nud, [...] (B206)
as 2sg.NOM 1pl.ELA German.pl.NOM be.COND.2sg bring up.NUD
「あなたが私たちをドイツ人として育ててくれていたとしたら」

3.3.2. 変格補語における数の一致

名詞の変格補語の場合、一般に、例文(38)に見られるように、主語または目的語と数の一致を行う。一方、形容詞の変格補語は、一般に数の一致はなく、いつも単数形のままで用いられる[11]。

---

11 次の２例は、形容詞の変格補語が複数形になっているが、例外ではない。文 a の vähesteks は通常複数形で用いられる語であり、また、文bの rahuldavateks は、head と同じく、成績の段階を表わす表現として、形容詞から名詞化した語と考えられる。

a. Need pühapäeva-se-d muusika igavlemistunni-d jä-i-d
DEM.pl.NOM Sunday.ADJ.pl.NOM music.GEN boring.hour.pl.NOM remain.PAST.3pl
mu lapsepõlve-s *ühte-de-ks* *vähes-te-ks*, kus tund-si-n
1sg.GEN childhood.INE one.pl.TRA scarce.pl.TRA where feel.PAST.1sg
salajas-t kokkukkuuluvus-t isa-ga, [...] (M039)
secret.PAR together-belonging.PAR father.COM
「あの日曜日毎のたいくつな音楽の時間は、私の子ども時代において、父親に対してひそかな親密感を抱くことのできた数少ない機会であった」

b. [...] tema hea-d ol-i-d tunnistuse-l juba ammu muutu-nud
3sg.GEN good.pl.NOM be.PAST.3pl certificate.ADE already long ago change.NUD
rahuldava-te-ks [...] (M079)
fair.pl.TRA
「彼の成績表の良は、もうずっと以前から可に変わっていた」

次の２例は名詞の変格補語が数の一致を起こしていない例であるが、文 c の aadrilaskmiseks は抽象名詞であり、文 d の invaliid も抽象名詞に転用されたと考えれば、複数形になっていないことが説明できると思われる。

c. [...] mõlema-d ol-i-d *aadrilaskmise-ks* eesti rahva-le. (K147)
both.pl.NOM be.PAST.3sg bloodletting.TRA Estonian folk.ALL
「どちら(＝ドイツおよびロシアによる占領)も、エストニア民族にとっては 放血の災難

(38) a. [...] *ma* *ole-ksi-n* onu Kurnimi-ga veel *parema-ks* *sõbra-ks* saa-nud,
1sg.NOM be.COND.1sg uncle Kurnim.COM still better.TRA friend.TRA get.NUD
[...](M027)
「私はクルニムおじさんともっとよい友だちになっていたかもしれない」

b. [...] *sa-i-me* onu Kurnimi-ga *sõpra-de-ks*. (M027)
get.PAST.1pl uncle Kurnim.COM friend.pl.TRA
「私とクルニムおじさんは友だちになった」

(39) 動詞 olema とともに用いられる複数変格形の主語補語

a. Need *ol-i-d* rahva *suur-te-ks* *pidupäeva-de-ks*. (K140)
DEM.pl.NOM be.PAST.3pl folk.GEN big.pl.TRA festival.pl.TRA
「(5年毎の歌謡祭は)民族の重要な祝日であった」

b. Enamasti *ol-i-d* *võitu-de-ks* tühja-tähja asjakese-d, [...] (M052)
mostly be.PAST.3pl prize.pl.TRA trifle thing.pl.NOM
「賞品はたいてい、細々とした安っぽい品物だった」

であった」

d. Samuti jä-i-d tuhande-d *invaliidi-ks*. (K147)
likewise remain.PAST.3pl thousand.pl.NOM invalid.TRA
「同様に何千という人々が障害者となった」

次の2例は、形容詞の変格補語が複数形になっている破格の用例である。

e. [...] muutuva-d luuletaja mõtte-d ja paberi-le pan-dud rea-d
change.3pl poet.GEN idea.pl.NOM and paper.ALL put.TUD line.pl.NOM
murelikku-de-ks. (K186)
worried.pl.TRA
「詩人の思いと紙に書かれる表現は暗いものになった」

f. [...] Anne on liiga hea naine *selle-ks*, *et* *Liisa* *lapsi* *enda*
Anne.NOM be.2sg too good.NOM DEM.TRA that Liisa. GEM child.pl.PAR self.GEM
oma-st *halvema-te-ks* *pida-da*. (B156) [=(53c)]
own.ELA worse.pl.TRA regard.INF
「アンネはとてもいい人だったので、リーサの子どもを自分の子どもより劣っていると見るようなことはできなかった」

c. Nende kuninga kinga-de-l *on* *lehvi-de-ks* inimese keele-d. (B202)
3pl.GEN king.GEN shoe.pl.ADE be.3pl slipknot.pl.TRA human.GEN tongue.pl.NOM
「彼らの王の靴に結んであるひもは、人間の舌だ」

(40) 複数変格形の主語補語

a. [...] meie ülejäänud *jä-i-me* *reatantsija-te-ks*. (M042)
1pl.NOM remaining remain.PAST.1pl row-dancer.pl.TRA
「残った私たちは、一列に並んで踊る役を与えられた」

b. [...] õpetaja-d *muutu-si-d* vahel *masina-te-ks,* [...] (M049)
teacher.pl.NOM change.PAST.3pl at times machine.pl.TRA
「教師たちは時に、機械のようになった」

c. [...] *ol-i-me* *jagune-nud* nüüd *klassi-de-ks* [...] (M048) [=(26e)]
be.PAST.1pl be divided.NUD now class.pl.TRA
「わたしたちはクラスに分れていた」

(41) 複数変格形の目的語補語

a. *Tee-me* ennast *mustlas-te-ks,* [...] (M073) [=(30d)]
make.1pl self.PAR gypsy.pl.TRA
「ジプシーに変装しようよ」

b. [...] *ei* *ole-ks* keegi *pida-nud* neid *õde-de-ks*. (M089)
NEG be.COND anyone.NOM regard.NUD 3pl.PAR sister.pl.TRA
「誰もかれらを姉妹だと思わなかったであろう」

c. [...] *mõtle-si-n* neid *looma-de-ks* ning *lintu-de-ks*. (M122) [=(34a)]
think.PAST.1sg DEM.pl.PAR animal.pl.TRA and bird.pl.TRA
「それら(雲)が動物や鳥だと思っていた」

(40)と(41)の例は、いずれも補語が名詞の場合であるが、形容詞が補語の場合は、(42)と(43)のように、主語・目的語が複数でも、補語は単数変格形で現われる。

(42) 複数主語に対する単数変格形の主語補語

a. Nad *ol-i-d* *saa-nud* 20 aasta-t *vana-ks*. (K137)
3pl.NOM be.PAST.3pl get.NUD year.PAR old.TRA
「彼らは20歳になっていた」

b. Ta käsivarre-d *on* *peenikese-ks* *jää-nud.* (L071)
3sg.NOM limb.pl.NOM be.3pl slender.TRA remain.NUD
「彼の手足はやせ細ってしまった」

c. [...] lapse-d *muutu-vad* *jonnaka-ks.* (M102)
child.pl.NOM change.3pl stubborn.TRA
「子どもたちが言うことをきかなくなる」

d. [...] ta silma-d *märja-ks* *läksi-d* [...] (L064)
3sg.GEN eye.pl.NOM wet.TRA go.PAST.3pl
「彼女の目は涙に濡れた」

(43) 複数目的語に対する単数変格形の目的語補語

a. [...] *pühk-is* prilli-d *puhta-ks* [..] (L041) [=(31b)]
wipe.PAST.3sg eyeglass.pl.NOM clean.TRA
「メガネを拭いてきれいにした」

b. *Värvi-si-me* ema huulepulga-ga oma huule-d *punase-ks*, [...] (M075)
color.PAST.1pl mother.GEN lipstick.COM own lip.pl.NOM red.TRA
「私たちは母の口紅で自分たちの唇を赤く塗った」[=(31c)]

c. Ühe-l päeva-l taht-is Urve oma kodutee-d *pikema-ks*
one.ADE day.ADE want.PAST.3sg Urve.NOM own way home.PAR longer.TRA
venita-da [...] (M067)
stretch.INF
「ある日、ウルヴェは帰宅時に回り道をしようとした」

3.4. 変格の副詞的用法

主語補語、目的語補語とみなすことができない変格の用法を、便宜上、「副詞的用法」と呼ぶことにする。

変格の副詞的用法は、大きく「時間の表現」「目的の表現」「文副詞的な用法」の３つのグループに分けられると考えられる。この３つの副詞的表現は、同一文中に共起することができる。

(44) *Meie* *üllatuse-ks* sõit-is ta *kolme-ks* *kuu-ks* Saaremaa-le
1pl.GEN surprise.TRA go.PAST.3sg 3sg.NOM three.TRA month.TRA Saaremaa.ALL
lasteaia *kasvataja-ks.*
kindergarten.GEN teacher.TRA
「私たちにとって意外だったことに、彼女は3ヶ月の予定で、幼稚園の先生としてサーレマーへ出かけて行った」

3.4.1. 時間表現に用いられる変格

これは、Lavotha (1973)の下位区分の3番目の項目－例文(5)－に相当する用法である。

変格による時間の表現は、大きく、期限を表わす表現(ある行為・現象がそれまでに実現または終了している期限の時間を表わす)と予定される継続期間を表わす表現(ある行為・現象が継続することが予定されているその継続期間を表わす)とに分けられる。前者を「期限を表わす変格」、後者を「期間を表わす変格」と呼ぶことにする。

コーパスから採集した用例のうち、時間表現として分類されたものは、全部で63例あったが、内訳は、期間を表わす場合が44例、期限を表わす場合が19例である。

なお、「最後に」という意味の慣用表現として用いられる lõpuks (lõpp「最後、終り」の変格形)の用例(38例)は、これも期限の表現の一種と考えることができるかもしれないが、本稿では「文副詞的な用法」に分類した。

3.4.1.1. 期間を表わす変格

この変格の用法は、いずれも「彼女は週末に田舎へ行った」と訳すことの出来る次の2つの文を比較するとわかりやすい。

(45) a. Ta sõit-is *nädalavahetuse-ks* maa-le. (変格)
3sg.NOM go.PAST.3sg weekend.TRA country.ALL
b. Ta sõit-is *nädalavahetuse-l* maa-le. (接格)
3sg.NOM go.PAST.3sg weekend.ADE country.ALL

この2つの文の意味の大きな違いは、(45a)には「週末を過ごすために」という意味がある点である。つまり、(45a)を聞いたとき、聞き手は「彼女はたぶんおそくとも土曜日のうちに目的地に着き、月曜日からの仕事に間に合うように、日曜日の晩には再び戻るつもりだ」というふうに理解するのが普通である。これに対して、(45b)は、彼女の旅行が週末に行われたことを述べているにすぎず、彼女が実際に目的地に着いたのが日曜日であっ

てもおかしくないし、まして、彼女が次の月曜日までに町に戻って来るかどうかについては何も述べていない文である。

Lavotha (1973)が時間を表わす用法の例としてあげている(5)の３つの例文のうちで、期間を表わす変格の用例は、(5b)のみである。コーパスの用例のなかで、期間を表わす表現であることが明確な例には、次のようなものがある。

(46) a. Aita vaata-s *hetke-ks* mulle otsa, [...] (M062)
Aita.NOM look.PAST.3sg moment.TRA 1sg.ALL in the face
「アイタは、しばらく私をみつめた」

b. Kui tjotja Piina *mõne-ks* *minuti-ks* laua-st lahku-s, [...] (M084)
as aunt Piina some.TRA minute.TRA table.ELA leave.PAST.3sg
「ピーナおばさんが数分間テーブルを離れたとき」

c. [...] kui [...] Kurt tul-i *mõne-ks* *päeva-ks* Sompa-sse, [...] (M109)
as Kurt.NOM come.PAST.3sg some.TRA day.TRA Sompa.ILL
「クルトが数日間の予定でソンパにやってきたとき」

d. See kujune-s linnalapse-le *elu-ks* *aja-ks* meeldejääva-ks
DEM.NOM take shape.PAST.3sg town-child.ALL life.TRA time.TRA unforgettable.TRA
elamuse-ks. (K183)
experience.TRA
「それは町で育った子どもにとって一生忘れられない経験になった」

e. [...] aga isa keelita-s te-da *jõulu-ks* koju jaä-ma. (B208)
but father.NOM persuade.PAST.3sg 3sg.PAR Christmas.TRA home remain.INF
「しかし父親はクリスマスは家にいるように彼を説得した」

f. Ma lähe-n ainult *natukese-ks* töö-le. (M004)
1sg.NOM go.1sg only while.TRA work.ALL
「ほんのちょっとの間仕事に出かけてきます」

g. [...] siis too-vad *ööse-ks* plaadi-d koridoritrepi-le. (M020)
then bring.3pl night.TRA plate.pl.NOM corridor-staircase.ALL
「板を廊下の階段の所に持ってきて、夜の間そこに置いておく」

「とどまる」という意味の動詞 jääma は、期間の表現として変格をとることに注目しておきたい。

(47) a. Siia *jä-i* ta *ühe-ks* *aasta-ks*. (K176)
here remain.PAST.3sg 3sg.NOM one.TRA year.TRA
「彼はこの地に１年間留まった」

b. Nüüd *jä-i-n* *kaua-ks* *aja-ks* külalis-te-ta, [...] (M100)
now remain.PAST.1sg long.TRA time.TRA guest.pl.ABE
「その後長い間、私を訪れる人はいなかった」

c. [...] kui ema *jä-i* kojutulemise-ga *kauema-ks*, [...] (M011)
as mother.NOM remain.PAST.3sg home-coming.COM longer.TRA
「母の帰宅がいつもより遅くなったとき」

次のような例も期間を表わす変格表現の例に含めて考えてよいと思われる。

(48) a. Kõik eestlase-d on lahku-nud *ajutise-ks* [...] (K148)
all Estonian.pl.NOM be.3sg leave.NUD temporary.TRA
「エストニア人たちは皆、一時的に(祖国を)離れた」

b. [...] see ammune vale on *igavese-ks* kadu-nud, [...] (M096)
DEM.NOM ancient. NOM lie.NOM be.3sg eternal.TRA disappear.NUD
「あの大昔のうそは、永遠に忘れ去られた」

c. Proovi-si-me ka *korra-ks* istu-da kabiini-s, [...] (M084)
try.PAST.1pl also once.TRA sit.INF cabin.INE
「特別室にもちょっと座ってみたが」

3.4.1.2. 期限を表わす変格

この変格の用法は、次の２つの例文を比較するとわかりやすい。

(49) a. Isa tule-b koju *kella* *viie-ks*.
father.NOM come.3sg home clock.GEN five.TRA
「父は５時までに帰宅する」

b. Isa tule-b koju *kell* *viis*.
father.NOM come.3sg home clock.NOM five. NOM
「父は５時に帰宅する」

(49a)は、たとえば５時に何か予定があり、父はそれに間に合うように帰宅して、５時には家にいるつもりでいるという意味合いがある。これに対して、(49b)は、単に父の帰宅というできごとが５時に起こるということを述べている文にすぎない。

Lavotha (1973) のあげている３つの例文のうちで、期限を表わす変格の用例は、(5a)と(5c)の２つである。すでに上で述べたように、この意味に解釈される変格の用例は、期間の用例と比べるとかなり少ない。

(50) a. [...] nüüd saa-b vanaisa *lõuna-ks* lehe kätte. (M123)
now get.3sg grandpa.NOM noon.TRA newspaper.GEN into hand
「これで、祖父は昼までに新聞を手にすることができる」

b. Igaüks pea-b *homse-ks* kleepi-ma oma vihiku-sse sügispildi. (M032)
each must.3sg tomorrow.TRA paste.INF own notebook.ILL autumn.picture.GEN
「めいめい、明日までに自分のノートに秋の絵を貼ってくること」

c. [...] mina hoid-si-n põial-t, et Lilian jõua-ks
1sg.NOM keep.PAST.1sg thumb.PAR that Lilian.NOM reach.COND.3sg
õige-ks *aja-ks* jaama. (M118)
right.TRA time.TRA station.ILL
「私は、リリアンが間に合うように駅に着くよう祈った」

d. *Kella* *üheksa-ks* igatahes vesi veel ei kee-nud. (M85)
clock.GEN nine.TRA anyway water.NOM yet NEG boil.NUD
「とにかく、９時までに、お湯は沸かなかった」

時間に関する意味を持つ名詞の変格形が用いられている場合でも、「～のために」「～に備えて」という意味の場合は、厳密には、時間表現とは認めにくい。

(51) a. Hakka-si-me *järgmise-ks* *päeva-ks* püüdlikult õppi-ma, [...] (M070)
start.PAST.1sg next.TRA day.TRA diligently study.INF
「明日のために一生懸命勉強をはじめた」

b. [...] onu Rudolf ol-i mulle *sünnipäeva-ks* "Pambu-Peedu"
uncle Rudolf.NOM be.PAST.3sg 1sg.ALL birthday.TRA Pambu-Peedu.GEN
kinki-nud, [...] (M071)
present.NUD
「ルドルフおじさんが、誕生日に『パンプ＝ペート』をプレゼントしてくれた」

c. [...] hakka-si-n *proua* *Konstantinova* *tundi-de-ks* veelgi paremini
start.PAST.1sg Mrs. Konstantinova.GEN hour.pl.TRA still better
õppi-ma, [...] (M081)
study.INF
「コンスタンチノワ先生の授業のためにもっとよく勉強し始めた」

nädalavahetus「週末」は、「週の代わり目」という点としても、「金曜日の晩から日曜日の晩まで」という幅のある期間としても捉えることができるが、次の文の場合、変格表現を期限と期間のどちらに解釈しても、現実問題として、ほとんど差はない。

(52) Sa-i-n tulla *nädalavahetuse-ks* koju siit sanatooriumi-st [...] (SM)
get.PAST.1sg come.INF weekend.TRA home from here sanitarium.ELA
「私は週末にはこの保養所から家に帰ることができた」

どちらの解釈でもかまわないのは、「週末に家に帰る」という行為の目的が社会通念上一定しているためであろう。つまり、週末に間に合うように家に帰る人は、当然、週末を家で過ごすだろうと期待されるのである。

3.4.2. 目的の表現に用いられる変格

Lavotha (1973)にあげられていない変格の重要な用法に、指示代名詞 see の変格形を用いた行為の目的を表わす従属節を導く構文がある。

(53) a. Sellepärast teg-i onu Ruudi kõik *selle-ks*, *et* *ülikooli*
therefore do.PAST.3sg uncle Ruudi.NOM all DEM.TRA that university.GEN
rutem *lõpeta-da*. (M050)
more quickly finish.INF
「それで、ルーティおじさんは、大学を早く卒業しようとあらゆる努力をした」

b. Ma ei õpi keeli mitte *selle-ks*, *et* *nõinda* *oma* *tarkus-t*
1sg.NOM NEG study language.pl.PAR not DEM.TRA that thus own intelligence.PAR
näida-ta. (B175)
show.INF
「私はそうやって自分の賢さを見せびらかすためにいろいろな言語を勉強しているのではない」

c. [...] Anne on liiga hea naine *selle-ks, et Liisa*
Anne.NOM be.2sg too good.NOM woman.NOM DEM.TRA that Liisa.GEM
lapsi enda oma-st halvema-te-ks pida-da. (B156)
child.pl.PAR self.GEM own.ELA worse.pl.TRA regard.INF
「アンネはとてもいい人だったので、リーサの子どもを自分の子どもより劣っていると見るようなことはできなかった」

これに準じた目的を表わす表現は、接尾辞 -mine による動作名詞の変格形によってつくることができる。

(54) a. [...] leid-is ta selle kõrval ometi aega ka
find.PAST.3sg 3sg.NOM DEM.GEN besides yet time.PAR also
kirjanduse harrasta-mise-ks. (K158)
literature.GEN practice.MINE.TRA
「そのようなこととをしながらも、彼は時間を見つけて文学活動を行った」

b. Ta ei leid-nud kuidagi *edasi-rääki-mise-ks* sõnu. (L019)
3sg.NOM NEG find.NUD anyhow forward-speak.MINE.TRA word.pl.PAR
「話を続けようとしたが、言葉がみつからなかった」

c. *Selle-st pääse-mise-ks* läks ta maapakku. (K177)
DEM.ELA escape.MINE.TRA go.PAST.3sg 3sg.NOM exile.ILL
「それから逃れるために、彼は国外に亡命した」

d. [...] me ole-me *eesti keele edenda-mise-ks* juba mõndagi
1pl.NOM be.1pl Estonian language.GEN promote.MINE.TRA already something.PAR
ära tei-nud. (B199)
PTCL do.NUD
「私たちはエストニア語の振興ためにすでにある程度のことは行った」

e. *Selle teosta-mise-ks* tahe-ti venesta-da kõik väikerahva-d [...]
DEM.GEN implement.MINE.TRA intend.INDEF.PAST Russify.INF all small-people.pl.NOM
(K120)
「それを実現するために、すべての少数民族のロシア化が図られた」

f. *Revolutsiooni mahasuru-mise-ks* pan-di maks-ma karm
revolution.GEN suppress.MINE.TRA put.INDEF.PAST be in force.INF harsh.NOM
sõjaseadus[...] (K122)
war-law.NOM
「革命運動を抑圧するために、厳しい戦時法が施行された」

同様のことは、-mine 以外の接尾辞による動作名詞によっても行われる[12]。

(55) a. Tädi Marta ja Lilian hakka-si-d *kojusõidu-ks* asju
aunt Marta.NOM and Lilian.NOM start.PAST.3pl home-going.TRA thing.pl.PAR
pakki-ma [...] (M116)
pack.INF
「マルタおばさんとリリアンは、家に帰るための荷造りをはじめた」

b. Ja soovita-s ema-l viia mind *kontrolli-ks* röntgeni-sse.
and recommend.PAST.3sg mother.ADE take.INF 1sg.PAR control.TRA X-ray.ILL
(M104)
「母親に、私を検査のためにレントゲンに連れて行くよう勧めた」

c. *Piima* *ja* *selle* *saadus-te* *müüg-iks* asuta-ti
milk.GEN and DEM.GEN product.pl.GEN sale.TRA establish.INDEF.PAST
era- ja ühispiimatalitus-i. (K124)
private and cooperative-milk-office.pl.PAR
「牛乳およびその加工品を販売するために、個人経営または共同経営の牛乳事務所が作られた」

d. [...] ema astu-s *oma* *venna* *kaitse-ks* energiliselt välja.
mother.NOM step.PAST.3sg own brother.GEN defense.TRA energetically forth
(M050)
「母は自分の弟を弁護しようと必死になった」

e. Kirikuteener kummarda-b *jaatuse-ks*, [...] (B147)
church-servant.NOM bow.3sg affirmation.TRA
「教会の下僕は、はいという気持ちを表わすためにひざまづく」

このタイプの変格表現が、動詞 olema を述語とする文において用いられる場合は、(56)の例のように、行為の目的というよりは、あるものがどのような用途のためにあるかを表わしていると言える。このタイプの変格表現は、時間、金、理由、方法などを意味する名詞とともに現れるが、統語的に問題の名詞とシンタグムを作っていると見なすことはむずかしいと思われる。

12 動詞の maks 形は、今回用いたコーパスの中には１例も見つからなかった。

(56) a. Aga Arno-l ei ol-nud nüüd *selle-ks* aega, *et* *mõtel-da*
but Arno.ADE NEG be.NUD now DEM.TRA time.PAR that think.INF
niisugus-te-le *asja-de-le*. (L022)
such.pl.ALL thing.pl. ALL
「しかしアルノには、そんなことを考えている暇はなかった」

b. [...] ei ol-nud raha *raamatu-te* *ostmise-ks*, [...] (M125)
NEG be.NUD money.PAR book.pl.GEN purchase.TRA
「本を買うお金がなかった」

c. *Kerge-ks* *meeleolu-ks* ol-i ta-l õigupoolest vähe põhjus-t. (K194)
easy.TRA mood.TRA be.PAST.3sg 3sg.ADE in fact little cause.PAR
「気持ちを明るくもてるような心境ではなかった」

d. [...] see ol-i ainus võimalus *aja* *võitmise-ks*. (M018)
DEM.NOM be.PAST.3sg only possibility.NOM time.GEM winning.TRA
「それは、時間を稼ぐための唯一の方法だった」

また、(57)のように、変格表現が名詞を修飾していると考えられる例も見られる[13]。

(57) Ettevalmistuse-d *selle-ks* alga-si-d ärkamisaja-l [...] (K124)
preparation.pl.NOM DEM.TRA begin.PAST.3pl awakening-time.ADE
「そのための準備がはじまったのは、民族覚醒期である」

---

13 斜格形の名詞(N')が、その直前の名詞(N)とシンタグムを形成しているか否かの判断は、Nが動詞の後ろに現われている場合には、とくにむずかしくなる。一般的には、このような環境にあるN'は、可能なかぎり、Nの斜格修飾句としてではなく、動詞にかかる副詞句として解釈される傾向がある。Tauli (1980)が、名詞とシンタグムを形成している変格表現としてあげている用例の大部分は、たとえば次の文 a のように、このような再解釈を行った方が適当ではないかと思われる。これに対して、文 b の kirkus laulamiseks は統語的にも tema ettepanek に依存していると考えた方がいい。それぞれの文における tema ettepanek と kirikus laulamiseks の間の統語的結び付きの緊密さを比べると、文 a の場合は非常に緩いと感じられる。

a. Ta ol-i tei-nud ettepaneku *kiriku-s* *laula-mise-ks*. (VT171)
3sg.NOM be.PAST.3sg make.NUD proposal.GEN church.INE sing.MINE.TRA
「彼女は、教会で歌うという提案を行った」

b. Mind huvita-b tema ettepanek *kiriku-s* *laula-mise-ks*.
1sg.PAR interest.3sg 3sg.GEN proposal.NOM church.INE sing.MINE.TRA
「教会で歌うという彼女の提案は面白いと思う」

変格表現とともに現われる形容詞の例を(58)に示す。このような場合も、目的・用途を表わす変格の用法に含めて考えていいと思われる。(59)のように liiga「～すぎる」を形容詞(ときに名詞)とともに用いて、目的・用途の変格表現を導入する構文もここに含めておく。

(58) a. [...] Eestimaa on *kõige-ks* valmis, [...] (L044)
Estonia.NOM be.3sg all.TRA ready
「エストニアはあらゆることに対する覚悟ができている」

b. [...] ol-i-n *ülestõusmise-ks* jõuetu, [...] (M103)
be.PAST.1sg up-rising.TRA powerless.NOM
「私は起き上がる体力がなかった」

c. Teos ei ole *avaldamise-ks* küps. (EKS.II.799)
work.NOM NEG be publishing.TRA mature.NOM
「作品はまだ出版できる形に仕上がっていない」

d. [...] koht ja silmapilk ei ol-nud *selle-ks* kohase-d. (L027)
place.NOM and moment.NOM NEG be.NUD DEM.TRA suitable.pl.NOM
「場所と時間が、そのためにふさわしくなかった」

(59) a. [...] *selle-ks* ole-d sa veel liiga noor, *et* *sulle* *se-da*
DEM.TRA be.2sg 2sg.NOM yet too young that 2sg.ALL DEM.PAR
seleta-ma *haka-ta*. (L056)
explain.INF start.INF
「お前はまだ、それを説明してわかるような年齢ではない」

b. *Maaelu-ks* ole-d sa liiga linnamees. (EKS.III.126)
country-life.TRA be.2sg 2sg.NOM too much town-man.NOM
「田舎で住むには、お前は都会人すぎる」

動詞 kõlbama, sobima とともに現れる変格表現は、役割を表わす主語補語－例文(28)－のほかに、目的を表わす副詞句であることもある。

(60) a. [...] isa käsi luuvalu pärast enam *kirjutamise-ks* palju
father.GEN hand.NOM bone-pain.GEN owing to any longer writing.TRA much
ei kõlva-nud. (K164)
NEG be fit.NUD
「父の手は、節々が痛んで、もはや字を書くためには使いものにならなかった」

b. see palk sobi-b *istumise-ks* (SP856)
DEM.NOM timber.NOM suit.3sg sitting.TRA
「この材木は座るのにちょうどよい」

目的語補語と目的・用途の変格の交わりについては、既に3.2.－例文(28)(29)(35)－でにおいても簡単に触れたが、ここでは、そのような交わりが起こるメカニズムについて考えてみると、鍵は(61)のような表現にあると思われる。

(61) a. [...] pilte, mi-da päevapiltnik ol-i *reklaami-ks*
photo.pl.PAR REL.PAR photographer.NOM be.PAST.3sg advertisement.TRA
välja pan-nud. (M059)
out put.NUD
「写真師が宣伝のために展示した写真」

b. Ta katsu-s ütel-da midagi *vabanduse-ks*, [...] (L013)
3sg.NOM try.PAST.3sg say.INF something.PAR apology.TRA
「彼は何か言ってあやまろうとした」

(61)の文は、他動詞文として、(55a)(55b)(55c)と基本的に同じ構造を持っていると考えられるが、(55)の場合と異なり、変格表現 reklaamiks, vabanduseks を目的語補語とのアナロジーで解釈することが可能である。いいかえると、reklaam と vabandus は、「宣伝」とか「釈明」という抽象的なものとしてだけでなく、「宣伝のための商品」「釈明のためのことば」という具体物としても解釈できる点で、(35)で扱った次のようなケースに限りなく類似してくると言える。

(62) a. *Nuku nime-ks pan-di* Jakob [...] (M116) [=(35c)]
doll.GEN name.TRA put.INDEF.PAST Jakob.NOM
「人形の名前としてヤーコプと名付けた」

b. [...] *pakku-si-n* ennast *abi-ks* (M054) [=(35h)]
offer.PAST.1sg self.PAR help.TRA
「私はお手伝いしましょうかと申し出た」

なお、(61)のような現象は、自動詞の場合には起こりにくいが、それは、動作名詞を人を表わす名詞に転化させることが困難なためであると考えられる。たとえば、次の例で、jaatuseks や vastuseks が、主語補語相当の解釈を受けるためには、人を表わす表現として解釈される必要があるが、それは、この文脈では不可能であろう。

(63) a. Kirikuteener kummarda-b *jaatuse-ks*, [...] (B147) [=(55e)]
church-servant.NOM bow.3sg affirmation.TRA
「教会の下僕は、はいという気持ちを表わすためにひざまづく」

b. [...] need-ki nooguta-vad *vastuse-ks*. (B169)
DEM.pl.NOM.also nod.PAST.3pl reply.TRA
「彼らも、返事をするためにうなずいた」

他方、動詞 kõlbama, sobima に注目すれば、(28)のように主語補語と解釈できる場合と(60)のように目的と理解される場合との差は、変格であらわれている名詞の意味に大きく依存していると考えられ、ここでも、役割を表わす主語補語としての変格と目的を表わす副詞的な変格とは、紙一重の関係にある。

このように、「目的を表わす変格」は、(28)(29)(35)(60)(61)のような境界領域にある変格表現を媒介にして、主語補語・目的語補語としての変格表現につながっていると考えてよい。

3.4.3. 文副詞的な用法

変格表現は、このほかに、次の例が示すように、一種の文副詞相当としても使われるが、この用法は、結果ないしは目的の特別なケースと考えることもできそうである。

(64) a. Nüüd aga ütle-s Milvi Laid *minu* *suure-ks* *imestuse-ks*, et [...]
now but say.PAST.3sg Milvi Laid.NOM 1sg.GEN big.TRA wonder.TRA that
(M041)
「すると、私にはとても不思議だったが、ミルヴィ・ライトはこう言った」

b. [...] kuid *meie* *mõlema* *üllatuse-ks* ei haka-nud-ki ema
though 1pl.GEN both.GEN surprise.TRA NEG start.NUD.EMPH mother.NOM
Monika-ga riidle-ma. (M070)
Monika.COM quarrel.INF
「しかし、私たちふたりにとっては意外だったが、母とモニカは口げんかを始めなかった」

c. [...] otsusta-s *minu* *ema* *rõõmu-ks* las-ta mu-l
decide.PAST.2sg 1sg.GEN mother.GEN joy.TRA let.INF 1sg.ADE
koolipeo-l esine-da. (M078)
school-festival.ADE appear.INF
「私を学芸会に出演させることが決って、母は喜んだ」

d. Kuid *neiu* *ehmatuse-ks* hakka-b-ki järv ühe-l öö-l
however maiden.GEN fright.TRA start.3sg.EMPH lake.NOM one.ADE night.ADE
enne jaani rända-ma. (K185)
before Midsummer.PAR wander.INF
「しかし、その娘の驚いたことに、湖は夏至の前のある夜、移動を始めた」

e. *Kahju-ks* mu merisea-d on praegu haige-d. (M106)
harm.TRA 1sg.GEN guinea pig.pl.NOM be.3pl at the moment ill.pl.NOM
「残念ながら、私のモルモットは今病気だ」

(65) a. [...] oska-s *lisa-ks* *eesti* *keele-le* korralikult saksa keel-t [...]
can.PAST.3sgaddition.TRA Estonian language.ALL well German language.PAR
(B150)
「エストニア語の他にドイツ語がちゃんとできた」

b. Nii ol-i *näite-ks* elanike arv rahvaloendus-te
so be.PAST.3sg example.TRA inhabitant.pl.GEN number.NOM census.pl.GEN
andme-i-l Tallinna-s 1871. aasta-l 33 269, [...] (K124)
datum.pl.ADE Tallinn.INE year.ADE
「国勢調査の資料では、たとえば1871年におけるタリンの人口は33,269人である」

c. Läksi-n tänava-le ja vaata-si-n *iga-ks* *juhu-ks* veel kord
go.PAST.1sg street.ALL and look.PAST.1sg every.TRA case.TRA yet time.NOM
maja üle. (M054)
house.GEN over
「通りに出て、とりあえずもう一度家を見てみた」

Lavotha (1973)の下位区分の第４項－序数などの変格形の特別用法(6)－もここに含めて考えることができそうである。

(66) a. *Esite-ks* ma ei osa-nud kääri-de-ga lõiga-ta, [...] (M032)
first of all 1sg.NOM NEG can.NUD scissor.pl.COM cut.INF
「まず第１に、私は鋏を使って切ることができなかった」

b. [...] *teise-ks*, ma ei tead-nud, kuidas näe-b sügispilt välja.
secondly 1sg.NOM NEG know.NUD how appear.3sg autumn-picture.NOM out
(M032)
「第２に、私は、秋の絵がどんなものか知らなかった」

c. [...] *kolmanda-ks* ei ol-nud Arno ülepea kuigi suur jutumees.
thirdly NEG be.NUD Arno.NOM at all though big.NOM tale-man.NOM
(L014)
「第3に、アルノは決して話上手ではなかった」

非常に頻度の高い lõpuks (38例)と viimaks (32例)もここに含めておく。

(67) a. Kui see siis *viima-ks* kätte jõud-is, [...] (L026)
as DEM.NOM then at last into hand reach.PAST
「そしてその時間がとうとうやってきた時」

b. *Lõpu-ks* läksi-me kahekesi Monika koju. (M070)
in the end go.PAST.1pl together Monika.GEN home
「結局ふたりでモニカの家に行った」

3.4.4. 変格の副詞的用法に関する補足

目的・用途の表現と密接な関係にあるのが 理由を問う疑問詞の miks 「なぜ」である。この疑問詞の形態は、語源的に疑問詞 mis「何」と同じ語根 mi- にさかのぼるものであり、miks はその語根に変格語尾がついたものと考えられる。しかし、共時的には、疑問詞 mis の変格形は milleks「何のために(目的)」であり、miks は mis の変格形として見なすべきではない。疑問詞 miks は非常に頻度が高く、76例が採集された。

(68) a. *Miks* sa se-da salaja teg-i-d? (M013)
why 2sg.NOM DEM.PAR secretly do.PAST.2sg
「お前はなぜそれをかくれてしたのか」

b. *Miks* sa valuta-d oma südan-t ilmaasjata? (B205)
why 2sg.NOM hurt.2sg own heart.PART in vain
「君はなぜ理由もなく自分の心をいためているのか」

後置詞 jaoks「～のために」は、語源的には名詞 jagu「分け前」の変格形として説明されるが、意味の転移が大きく、共時的には、名詞 jagu とは独立した語彙単位と見るべきであろう。後置詞 jaoks も非常に頻度が高く、38例が採集された。

(69) a. Se-da on *Jaagu* *jaoks* liiga palju. (B157)
DEM.PAR be.3sg Jaak.GEN for too much
「それはヤークにとって多すぎる」

b. [...] ema ei leid-nud *minu* *nukunurga* *jaoks* ruumi. (M023)
mother.NOM NEG find.NUD 1sg.GEN doll-corner.GEN for room.PAR
「母は、私の人形をおく場所のためのスペースをみつけることができなかった」

4. 複合動詞・慣用句のなかの変格表現

最後に、Lavotha (1973)の下位区分の第５項－用例(7)－で言及されている複合動詞および慣用句についてふれておく必要がある。

いずれも２つ(以上)の語が比較的高い頻度で共起してシンタグムを形成するケースであるが、ここでは、意味の透明度が高い場合は慣用句とみなし、変格表現の意味が不透明になっているケースだけを複合動詞と呼ぶことにする。

比較的頻繁に用いられるが、意味が透明な変格表現を含む慣用句には次のようなものがある。

(70) pahase-ks saa-ma「気分を害する、おこる」(13例)

[...] kuid Aita *sa-i* minu peale *pahase-ks*: [...] (M077)
though Aita.NOM get.PAST.3sg 1sg.GEN upon angry.TRA
「しかし、アイタは私に対しておこった」

(71) terve-ks saa-ma「(病気がなおって)健康になる」(13例)

Taht-si-n lihtsalt *terve-ks* *saa-da*, [...] (M104)
want.PAST.1sg simply well.TRA get.INF
「私はただただ健康になりたかった」

(72) haige-ks jää-ma「病気になる」(10例)

[...] Liliani-l *jä-i* äkki kurk *haige-ks*. (M057)
Lilian.ADE remain.PAST.3sg suddenly throat.NOM ill.TRA
「リリアンは急にのどが痛くなった」

(73) selge-ks tege-ma「わかるようにはっきりと示す」(8例)

[...] neile, kes taha-vad maailma-le *selge-ks* *teha*, et [...] (B178)
DEM.pl.ALL REL.NOM want.3pl world.ALL clear.TRA make.INF that
「世界に対して次のようなことを明らかに示そうとしている人たちに対して」

(74) selge-ks saa-ma「(解明して)ちゃんと理解する」(7例)

[...] nõud-is [...], et ma *saa-ksi-n* pala *selge-ks*. (M040)
demand.PAST.3sg that 1sg.NOM get.COND.1sg piece.GEN clear.TRA
「私が(弾こうとする)曲をちゃんと理解していることを要求した」

(75) puhta-ks pühki-ma「よごれを拭きとってきれいにする」(3例)

Isa *on* põranda *puhta-ks* *pühki-nud*, [...] (B191)
father.NOM be.3sg floor.GEN clean.TRA wipe.NUD
「父は床をきれいに掃除した」

(76) kindla-ks määra-ma「明確に規定する」(3例)

[...] Asutav Kogu [...] *määra-b* *kindla-ks* riigikorra. (K126)
Constitutent Assembly.NOM determine.3sg firm.TRA state-order.GEN
「憲法制定議会が国家の仕組を明確に規定する」

(77) naise-ks võt-ma「めとる」(3例)

[...] tema [...] siis Teele enda-le *naise-ks* *võta-b*. (L024) [=(35d)]
3sg.NOM then Teele.GEN self.ALL wife.TRA take.3sg
「彼がテーレを嫁にもらう」

(78) tuttava-ks saa-ma「知合いになる」(2例)

Palun *saa-ge* *tuttava-ks*, [...] (B197)
Please get.IMP.2pl acquaintance.TRA
「(紹介しますから)知合いになってください」

(79) tuttava-ks tege-ma「紹介して知合いになってもらう」(2例)

Ma ole-n tõesti rõõmus, et Karl mind teie-ga *tuttava-ks*
1sg.NOM be.1sg really glad.NOM that Karl.NOM 1sg.PAR 2pl.COM acquaintance.TRA
teg-i, [...] (B200)
make.PAST.3sg
「私は、カルルが自分をあなたに引き合わせてくれたことが本当にうれしい」

(80) oma-ks võt-ma「自分のものにする」(2例)

[...] ka Arvo *ei* *võt-nud* uut kodu *oma-ks*. (M023)
also Arvo.NOM NEG take.NUD new.PAR home.PAR own.TRA
「アルヴォもまた、新しい家になじまなかった」

次のような慣用的な表現は、表現を構成している語の意味から全体の意味を組み立てることがむずかしいといえる。複合動詞とみなすべきであろう。

(81) ilmsi-ks tule-ma「明るみに出てはっきりする」(3例)

[...] *tul-i* *ilmsi-ks* mu sõnavara nappus [...] (M085)
come.PAST.3sg to light 1sg.GEN vocabulary.GEN scantiness.NOM
「私の語彙が貧弱なことがはっきりわかった」

(82) nõu-ks võt-ma「～ようと考える」(3例)

[...] *võtt-is* ta *nõu-ks* talle abi-ks olla. (L048)
take.PAST.3sg 3sg.NOM intention.TRA 3sg.ALL help.TRA be.INF
「彼の助けになってあげようと思った」

(83) ime-ks pane-ma「意外に思う」(3例)

Mina *pan-i-n* väga *ime-ks*, et [...] (M057)
1sg.NOM put.PAST.1sg very much marvel.TRA that
「私は次のことがとても意外に思えた」

(84) ande-ks palu-ma「ゆるしを求める」(3例)

[...] sund-is ta viimas-t oma pois-te-lt *ande-ks palu-ma*. (L047)
compel.PAST.3sg 3sg.NOM the latter.PAR own boy.pl.ABL ask.INF
「助教師は、彼に自分の生徒たちに対して謝らせようとした」

(85) ande-ks and-ma「ゆるしてあげる」(1例)

And-ke mulle *ande-ks* mu liigne uudishimu, [...] (B198)
give.IMP.2pl 1sg.ALL 1sg.GEN excessive.NOM curiosity.NOM
「私の度の過ぎた好奇心をゆるしてください」

3語からなる慣用句も見られる。

(86) vere-st tühja-ks jooks-ma「大量に出血して死ぬ」

Lähe-b	veel	aega,	enne	kui	ma	*vere-st*	*tühja-ks*	*jookse-n.*	(B146)
go.3sg	yet	time.PAR	before	as	1sg.NOM	blood.ELA	empty.TRA	run.1sg	

「私が出血で死ぬまでにはまだ間がある」

5. まとめ

本稿では、コーパスから採集した1000例余りの用例すべてを考慮しながら、エストニア語の変格の用法を次のように下位区分してみた。

I	主語補語	(3.1.)
II	目的語補語	(3.2.)
III	時間表現の変格	(3.4.1.)
IV	目的を表わす変格	(3.4.2.)
V	文副詞相当の変格	(3.4.3.)

この下位区分を Lavotha (1973) の記述と比較してみると、Lavotha (1973)は、目的語補語、目的を表わす変格、文副詞相当の変格についての言及を欠いていることがわかる。すなわち、エストニア語の変格は、 Lavotha (1973)で提示されているよりは、かなり広い用法を持っていることが明らかになった。

主語補語・目的語補語としての用法と目的を表わす用法との間に連続性があると考えられることについては、本文のなかで触れた通りであるが、この問題に関しては、もっと体系的な研究が望まれる。時間表現と目的の表現との間の意味的連関は、今一つ不明で、これを明らかにすることは、今後の課題として残しておく。

全体として、エストニア語の変格の意味・用法は、非常にきれいな体系をなしているという印象をうける。もし、変格の基本的意味をとりだす必要があるとすれば、Lavotha (1973) のまとめは、伝統的な考え方を忠実に踏襲しているものとはいえ、的を射たものと考えてよさそうである。

他の格についてもその用法を同じようすっきりと整理できるかどうかを明らかにすることは、エストニア語の格の意味・用法の研究にとって、今後の大きな課題である。

略号一覧

ABE	欠格 (abessive)	INF	不定詞 (infinitive)
ABL	奪格 (ablative)	MINE	名詞化接尾辞
ADE	接格 (adessive)	NEG	否定小詞 (negation particle)
ALL	向格 (allative)	NOM	主格 (nominative)
COM	共格 (comitative)	NUD	能動過去分詞
COND	条件法 (conditional)	PAR	分格 (partitive)
DEM	指示詞 (demonstrative)	PAST	過去 (past tense)
ELA	出格 (elative)	REL	関係代名詞
EMPH	強調小詞	TRA	変格 (translative)
GEN	属格 (genitive)	ESS	様格 (essive)
ILL	入格 (illative)	TER	到格 (terminative)
IMP	命令法 (imperative)	TUD	受動過去分詞
INDEF	不定人称 (indefinite person)	VA	能動現在分詞
INE	内格 (inessive)		

1sg	1人称単数	1pl	1人称複数
2sg	2人称単数	2pl	2人称複数
3sg	3人称単数	3pl	3人称複数
pl	複数 (plural)		

用例の出典の略号

B	M. Berg (1987) *Kirjutajad.Seisab üksi mäe peal.*
EKS	*Eesti kirjakeele seletussõnaraamat.*
K	L. Lumiste et al. (1963) *Meie kodumaa.*
L	O. Luts (1982) *Kevade.*
M	H. Mänd (1983) *Väikesed võililled.*
SM	坂本真由美 (1992)
SP	Saagpakk (1982)
VT	Tauli (1980)

参考文献

Eesti kiujakeele seltussõnaraamat.
1988-91 Vol.1:A-J
1992-93 Vol.2:K
1993-94 Vol.4:O- (Publication in progress)
Tallinn: Eesti Teaduste Akadeemia Eesti Keele Instituut.

Erelt, Mati et al.
1993 *Eesti keele grammatika II. Süntaks.* Tallinn: Eesti Teaduste Akadeemia Keele ja Kirjanduse Instituut.

Lavotha, Ödön
1973 *Kurzgefaßte estnische Grammatik.* Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Matsumura, Kazuto
1994 "Is the Estonian adessive really a local case?" *Journal of Asian and African Studies* 46/47. pp.223-235. Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik.
1985 *A Comprehensive Grammar of the English Language.* London and New York: Longman.

Saagpakk, Paul F.
1992 *Eesti-inglise sõnaraamat: Estonian-English Dictionary.* Tallinn: Koolibri.

Tauli, Valter
1980 Eesti keele grammatika II. Lauseõpetus. Uppsala: Finsk-ugriska institutionen.

Wiedemann, Ferdinand Johann
1875 Grammatik der ehstnischen Sprache. St.-Pétersbourg: Académie Impériale des sciences.

阪本　真由美
1992 「エストニア語の変格について」 Unpublished manuscript.

松村 一登
1988 「エストニア語」『言語学大辞典』第1巻 pp.913-930. 東京: 三省堂
1991 『エストニア語文法入門』 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
1992 「エストニア語の接格(adessive)について」『文化言語学—その提言と建設』「文化言語学」編集委員会編(1992) pp.993-1008. 東京: 三省堂

A Corpus-based Study of the Estonian Translative Case

MATSUMURA Kazuto

Keywords: Estonian, case, translative, Uralic, corpora

This paper is an attempt at a comprehensive description of the syntax and semantics of the Estonian nominal case called "translative", based on a 90,000-word collection of electronic text in written Estonian. Some 1,000 attested occurrences of the Estonian translative case are grouped into five major classes: subject complement, object complement, adverbial of time, adverbial of purpose/use, and sentential averbial. Concrete examples are provided to show how these apparently distinct classes are interrelated among themselves.

(まつむら かずと・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所/
Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA),
Tokyo University of Foreign Studies)